



1 <クイズ1> 何をしているところでしょう？



<ヒント> 昭和50(1975)年11月に、渡 武彦さん(田検中1年、渡 慶子さんのひいおじいさん)が書かれた『親がなしぬしま』という本の中に紹介されています。下の文章を読んでみましょう。

これは、70年ほど前(今から110年前:福田加筆)にセイキチさんと呼ばれていた鹿児島の方が手ほどきされた踊りである。(菱刈町という言い伝えもある:福田加筆)

その方は、あちらこちらの青年に指導されたが、種類が多く動作が複雑かつ敏捷なので数ヶ月かかってもおぼえなかった。[敏捷=動作がすばやいこと]

ところが、須古の青年に教えたなら教日でものにしてしまったので指導に熱が入り、それ以来、須古の豊年祭には欠くことのできない出し物になったということである。(つづきは、右段の上の文章へ)

さあ、もう、こたえは分かりましたね。

<こたえ1> 「踊り」をおどっているところです。

2 <クイズ2> 手に持っているものは、何？

<ヒント> 下の文章を読んでみましょう。

エイエイ、オウの気合いもすさまじく、鉄製の鎌と手槍で丁々発止と火花を散らして踊り舞う壮観さは、息もつまるばかりの勇壮活発しかも艶麗なものであった。

<ことばの意味>

丁々発止: 刀などで激しく音を立てて打ち合うようす。

壮観さ: 動作などが大きくてすばらしいようす。

勇壮活発: 勇ましく生き生きとして元気がよいようす。

艶麗: すかたや形があでやかで、美しいようす。

さあ、もう、こたえは分かりましたね。

<こたえ2> 「鎌」と「手槍」です。



* 今は、本物を使って踊ることはありません。

3 「鎌踊り」とは？

元々、鎌踊りは1863年の薩英戦争の頃、農民に本物の武術を教えるのではなく、踊りによって戦いの志気を鼓舞しようとしたのが始まりという説があります。

南九州市の川辺地区や曾於市の末吉地区、霧島市の福山新原地区などでは、今も、護国豊穰を願う伝統芸能として大切に踊り継がれています。

平成4年に須古の皆さんを中心にした保存会の御苦勞により「須古鎌踊り」は見事に復活。その後、須古の豊年祭や宇検村成人式等で踊られていました。

しかし、ここ数年間は踊られることがありませんでした。そこで、将来を心配された保存会の皆さんを中心にして、「須古鎌踊り」を若い人たち(子どもたち)に見せて、踊り継ぐ人材を育てようという気運が一気に高まり、今年5月6日、16名が須古集会場に集まり話し合いをされました。左上の写真は、昔を思い出しながら練習されている様子です。

6月13日(土)の土曜参観日の11時30分から体育館で披露して下さることになりました。多くの子どもたちや校区の皆さんに、是非とも見て欲しいです。

霧島市福山町新原の早馬神社の早馬祭り奉納される「新原鎌踊り」の由来によれば、今から126年ほど前に「当地(新原)出身の東村末吉」という人が谷山方面(鹿児島市)より覚えて、当地の若者に教えたのが始まり」という言い伝えがあるようです。

ひょっとして、「東村末吉さん」は、須古に伝えた「セイキチさん」と同一人物ではないかなあと、想像を膨らませているところです。
* 次号は、「芦検稲すり踊り」の予定です。(文責:福田裕生)